



調達業務とは？



《建物編》

Q. JICSは建築案件の調達業務もたくさん担当していると聞いたけど、建築案件の「調達業務」ってあんまりイメージがわからないなあ・・・

A. 『調達とは (1)品物編』でも紹介したとおり、JICSはODAに関する調達、すなわち「ODAのルールに従って、物品・サービスをとりそろえる」仕事をやっているんだ。ODAの資金を活用して途上国に施設を建設する場合は、『調達とは (1)品物編』で紹介したような“品物の調達”に加えて、サービスの調達と進捗管理が重要な仕事になるんだ。
実際にどんなことをしているか、学校を建設する案件を例にとってみよう。

案件実施の決定

《施設案件の調達業務の流れ》

- たとえば、B国から、「学校が足りないので学校を作りたいが、お金がなくて困っているため助けて欲しい」という連絡が日本に届いたとします。すると、日本国政府は調査・検討を行い、必要性が認められれば、B国に対して、学校を建設するための資金を贈ることを決定します。



決定です！

- B国に資金が贈られます。

日本からもらった資金で、頑丈な学校をできるだけ安く、たくさんつくりたいなあ。



B国

JICSへの依頼



でも！お金はB国のものになっても、日本のODAのルールに沿って使わないといけないんだよ。
だから、日本のODAのルールとそれに沿った手続きをよく知っているJICSに業務を依頼してくるんだ。

- B国とJICSが調達代理契約を結びます。



この調達代理契約では、B国の代わりにJICSが調達の手続きをすることになっているのよね。



〈必要な物やサービスを確認します〉

- JICS では、学校を建てるために何がいつ必要かを相手国の人たちと一緒に考えて提案していきます。このときに、工事予定の現地の様子やそこまでの道路事情、現地で一般的な学校の建て方などについてよく理解することが重要です。ただし、必要以上に高級すぎる施設を作るのは好ましくありません。学校施設に必要な機能を見極めつつ、これに合った条件で入札を行うことでより効率的な施設の建設が可能となるのです。また完成した後、現地の人々によって維持管理することができる、長く使われる学校を作らなくてはならないのです。



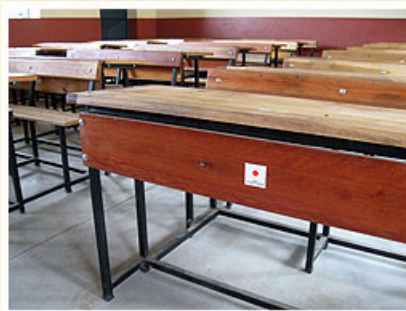
たとえば学校を建設する場合に必要なのは…



建設コンサルタント：
設計図の作成、技術的な管理を行う会社



建設会社：
学校を建てる会社



家具類納品会社：
学校に必要な家具類、たとえば机や椅子、黒板などを納める会社



現地 NGO：
学校施設や設備などの使い方を指導する人々



いろいろな会社や人が力をあわせて学校をたてるのね。

「（設計図や学校を）作る」「（技術的な）管理を行う」「指導をする」といったことをまとめて「サービス（役務）」と呼ぶんだ。
そして、「サービス（役務）の調達」とは、そのサービスを提供してくれる会社や人を選び、契約してそのサービスを提供してもらう、ということなんだよ。



- 何がいつ必要かわかったら、それらの必要なサービスをきちんと提供してくれる会社や人を選ぶための手続き「入札」の準備に入ります。より条件のいい会社や人を選ぶために、B国の新聞やJICSのホームページに入札のお知らせ「入札公告」を出して、できるだけたくさんの人に呼びかけます。

たとえば建設会社を選ぶ場合のお知らせ「入札公告」は…

B国政府からのお知らせ

日本政府から贈られたお金で小学校を建てます。この仕事をしてくれる会社を募集します。良い学校を、きちんと、しかも安く建てる自信がある会社はぜひ入札に参加してください。

作る場所と学校数：A村、C村、E村にそれぞれ5校ずつ

スケジュール：〇月×日応募締め切り

参加資格：今までに小学校を10校以上建てたことがある会社

連絡先：JICS(B国の代理人)



現地新聞に掲載された入札公告



入札公告には入札の要点が書かれているのね。

- このお知らせに興味を持った会社や人は、JICSに連絡をします。そしてJICSは連絡があった全ての会社や人に、入札に関するより詳しい資料「入札図書」を渡します。
- 入札に参加しようとする会社は入札図書をよく読んで、自分たちが提供できるサービスや、その価格などを資料にまとめて入札会場でJICSに提出します。



入札会



入札会は参加したすべての会社の人が見ている前で行われるのよね。

うん。みんなの前で行うことで、公正性、透明性を保つことができるんだ。



- JICSは、それぞれの会社が提出した資料を慎重に審査してから、その結果をB国と日本政府に報告して確認を受けます。その後条件を満たした会社の中で価格を含めて総合的に評価し、契約相手を選びます。

たとえば、建設会社を選ぶ場合に確認する点は…

- ✓ 経営がしっかりしている会社なのか
- ✓ 小学校を建てた経験があるか
- ✓ ちゃんとした建築の技術があるか
- ✓ 建設計画がしっかりしているか
- ✓ 安い(適切な)価格かどうか



いいものであっても高いと困るし、安くても悪いものだと困るよね。だから価格だけでなくそれぞれの会社の今までの経験や、建築の技術の程度もあわせて審査することが大事なんだ。

- こうしてよいよ学校の建設が始まります。学校が完成するまで、JICS が学校を建てるためのお金の管理もしながら、B 国で建設の進捗管理を行います。



建物を建てるには長い期間がかかるけど、その間ずっとJICSの人がB国で仕事をするのよね。

建設が予定通り、設計図通りに進んでいるか、確認するんだ。もしも予定通りに進んでいない場合は、その原因を確認して、うまく進めることができるように調整するんだ。そして、作業が進んだ段階に応じて建設会社に支払いをするよ。



- 学校の建設とあわせて、学校で必要となる家具類（机、椅子、黒板など）の調達も行います。

この他にも、必要に応じて現地の人々に学校施設や設備などの使い方を指導するためのワークショップを開いたりしているんだ。



完成した建物は大切に長い間使ってもらいたいもんね。

- 学校が完成し、必要な家具類を納入したのちに、B 国に引き渡します。



ついに完成ね。みんな嬉しそう！



学校に設置されたプレート

プレートには、この学校が日本から贈られた資金で建てられたことが書かれているんだよ

